

復 命 書

平成 27 年 月 日

日進市議会議長 武田 司 様

氏 名 大橋 ゆうすけ 印

出張期間

平成 27 年 1 月 21 日～23 日  
3 日間

出張先

福岡県及び大分県

参 加 者

・大橋ゆうすけ

用 務

- ・福岡県福岡市  
産業競争力強化法に基づく「創業支援事業計画」の  
認定について
- ・福岡県筑前町  
夜須中学校で午後の時間に行われている「昼寝」に  
ついて
- ・大分県日田市  
楽しく運動をして体力向上を目指す、縄跳びの取り  
組みについて
- ・福岡県立武蔵台高等学校  
ユネスコスクールでの加盟と活動の取り組みと国際  
交流について

復命事項

別紙参照

※別添資料 あり

# 復命書

## (行政視察報告書)

視察日

平成 27 年 1 月 21 日～23 日

視察先

- : 福岡県筑紫野市 福岡県立武蔵台高等学校・・・P, 2
- : 大分県日田市 日田市役所・・・P, 6
- : 福岡県福岡市 福岡市役所・・・P, 9
- : 福岡県朝倉郡筑前町 筑前町立夜須中学校・・・P, 14

作成日

平成 27 年 1 月 30 日

作成者

日進市議会議員 大橋ゆうすけ

日 時：平成 27 年 1 月 21 日 水曜日 13:30～15:00  
場 所：福岡県筑紫野市（福岡県立武蔵台高等学校）  
視察テーマ：ユネスコスクールへの加盟と活動の取り組みについて  
説 明 者：校長 濱口幸裕氏 主幹教諭 溝口康彦氏

### 福岡県立武蔵台高等学校概要

昭和 55 年に創設され、今年で 35 年目を迎えている学校です。全日制普通科高校で、クラス数は 26、全校生徒数 1011 名、職員数 72 名の学校であり、ほとんどの生徒が上級学校を志望している進学校となっています。

### 校訓・校章と教育活動

全ての教育活動を、校訓の『好学』『自主』『敬愛』のいずれかに結びつけて捉えています。

制定された当時の言葉によりますと、校章は「好学・自主・敬愛」に則り、歴史と文化を「誠実」に「創造」していく決意と「人類の平和と文化の発展に寄与する」有為な人材を育む高邁（こうまい）な理想を表すとされており、ユネスコの理念と合致するものです。

### ユネスコスクール加盟(2009/8)の経緯

当時、創立 30 周年を迎えるにあたり、過去の教育活動を見直し、次の 10 年間の発展の礎を築くために MRP (Musashidai Renaissance Project) なるものを発足させ、本校の教育活動全般を抜本的に見直されました。

その結果、学校が抱える喫緊の課題として下記に示す 3 点の課題があったそうです。

- 1、本校生徒は概ね素直であるが、自主性に乏しい傾向にある。
- 2、知識と身体をバランスよく鍛え困難に立ち向かう精神力を培うことが必要である。
- 3、全日制普通科の進学高等学校として特徴が薄い。

これらの課題克服の方法を模索するなかで、ユネスコスクールというものに出会い、その理念と本校校訓の共通性に着目し参加の方法を探っていたところ九州大学の飯島教授からご紹介のあった山下教授により、平成 21 年 8 月に九州の小・中・高等学校としては初めて、ユネスコスクールの認可を受けることとなったそうです。

そこで考えだされたのが、下記に示す 2 点の伝統的教育活動との融合でした。

- 1、基本的活動テーマの模索
- 2、本校を取り巻く地理的歴史的背景

歴史的背景としては、大宰府政庁跡や水城跡のすぐ近くに本校が位置しており、白

村江の敗戦後、唐・新羅の連合軍が博多湾に上陸した場合に備え、天智天皇の命により太宰府防衛のため、664 年に築かれた幅 80 メートル高さ 10 メートル長さ 1.2 キロに及ぶ堤防跡で国の特別史跡となっている。地理的には、筑紫野地区が背振山系と三郡山系に挟まれた隘路（あいろ）で、陸路で福岡平野から筑紫平野や九州南部に抜けられる唯一の道で、経済的にも軍事的にも重要な地域であった。

## 加盟テーマの決定

活動テーマを決定するにあたり、ユネスコの国際的な活動や、本校を取り巻く地域の豊かな歴史や文化を学ぶことで、国際社会における日本人としての役割を自覚し、郷土に誇りを抱くと共に、旺盛な好奇心を持って国際貢献できる生徒を育成したいとの考えから、「地域歴史文化研究」「国際理解・異文化理解」の2つのテーマに決定されました。

## 武蔵台ユネスコスクール活動宣言

福永前校長が起草された活動宣言の内容としては、「私たちは、日本という恵まれた国に暮らしているが、そのことを当然のことにように思い、感謝の気持ちが乏しい。また、私たちの住む郷土には、祖先が残してくれた豊かな歴史、素晴らしい文化があるにもかかわらず、関心が持てず、誇りを抱くことができていない。自分たちの暮らす郷土に、誇りを抱くことができないということは、自分たち自身に、誇りを持ってないということに繋がるのではないだろうか。私たちは、自分たちの暮らす郷土の自然と歴史を学び、誇りを持って語れる人間になりたい。ユネスコ・スクール加盟を機に、自分たちの暮らす郷土の素晴らしさに気づき、より深く学ぶ。その素晴らしさをユネスコの国際的な活動を通じて、世界の人々に伝える。また、様々な国を知り、そこに暮らす人々と積極的に交流することによって、「自分たちが世界のためにできることは何か」と考え、自主的に行動できる人間を目指したい。との活動宣言をされました。

## 武蔵台ユネスコスクール活動指針（はぐくみたい力）

活動宣言に基づき、その精神を日常生活の中で活かしていくことを考え作られたのが、

下記に示す5点の活動指針です。

- 1、自分の意見を持ち、何事にも積極的に取り組もう。
- 2、郷土の自然や歴史を学び、郷土を好きになろう
- 3、郷土の歴史、文化について誇りを持って語れる人間になろう。
- 4、様々な国の人との出会いを大切にしよう。
- 5、相手の立場に立ち、「自分にできることは何か」と常に考えることができる人間になろう。

とされており、生徒が学校生活のなかで活かせるよう、活動宣言とともに、生徒手帳にも記載されています。

## 活動実施にあたり（参考資料1）

トップダウンという形で始まったユネスコスクール活動ですが、それを支え、定着させていくために下記に示す3点の校内体制整備も平行して行われたそうです。

- 1、ユネスコスクールの校務分掌上の位置の明確化
- 2、校内ユネスコ委員会の組織化
- 3、教科シラバスとの関連づけ

さらに、ユネスコスクールの主幹分掌を教務とし責任者を教務主任とすることで、

本校の教育活動の中心に位置づけ、次に生徒指導部の管轄として、各クラスから2名ずつ、計52名の生徒ユネスコ委員を選出し、各クラスのユネスコスクール活動の中心的役割を担ってもらうこととなっており、活動の企画、実行もしています。

## ユネスコスクール活動の取り組み

### 今まで行ってきた行事として

#### 1、天拝山登山

昭和55年の創設以来、30年間に渡り継続・実施されており、全校生徒が参加となっています。まさにシグネチャーアクティビティと呼ぶべき行事です。

目的は、心身を鍛練するとともに、地域の歴史文化と四季の自然の美しさに親しむこととされており。

天拝山は高さ258メートルの里山であり、菅原道真公が天に無実を訴えて天神様になった言い伝えのある山であり、生徒は2時間程度で登山し下山します。週6日制の時代は土曜の3、4限を利用して月に1回、3年間で36回登山を目標に実施されてきています。過去には、36回の登山に参加していないと卒業できない時代もあったとの事。現在は金曜日の午後に総合的な学習の時間の一環として実施されています。

#### 2、万葉の里プロジェクト

筑紫歌壇の名で知られ、「大伴旅人」「山上憶良」をはじめとする数多くの歌人や防人たちの歌が万葉集には載っています。そのため、筑紫野にはこれらの歌碑が至る所にあり、それらの歌碑を生徒ボランティアの手で拓本に取るものであり、5年前より実施されています。

#### 3、垂直的リンク、側面的リンク

夏休みの期間を利用して、本校の生徒が隣にある天拝小学校で4日間に渡り学習指導のボランティアを実施されました。教育関係への進学を希望する生徒を中心にボランティアを集めた結果、40名の定員に対し80名の希望があり、選考に苦慮されたそうです。

参加生徒および小学校の評判も大変よく、継続実施したい事業との事でした。

また、国の施設として九州国立博物館、県の施設として九州歴史資料館、市の施設として筑紫野市歴史博物館があり、環境に恵まれているため、九州国立博物館には毎年1年生がジュニア学芸員として活動に参加しています。ユネスコ校外研修では、この3つの施設を1、2年生で訪問しており、以前からの活動をユネスコスクール活動とされています。

## 新たに企画したユネスコスクール活動（参考資料2-1～2-6）

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| 1、ユネスコスクール講演会（全12回） | 2、海外派遣研修（全4回） |
| 3、地域歴史文化フィールドツアー    | 4、世界一大きな授業    |
| 5、グリーンウェブ           | 6、寺子屋プロジェクト   |

## 今後の方向性

- 1、既存のユネスコスクール活動の定着発展として
  - ・生徒ユネスコ委員の活性化と職員の共通理解の確立。
- 2、新しい活動の模索として

- ・ ESD カレンダーの作成・11月の創立記念日の週を『ユネスコウィーク』に設定し、その時期は特にESDの内容を全面に出した授業を集中実施。
- ・フィールドツアーの新しい目的地開拓・菅原伝授手習鑑の校内実演、天拝歌壇（仮称）の創設・お米プロジェクトへの参加などを検討中。

## 所感

福岡県立武蔵台高等学校のESDの取り組みに関しては、福永前校長の決断力と行動力で実現したものであり、さらに、その思いに応え行動に移している先生をはじめ、生徒全員で取り組んでいることを強く感じました。

主幹教諭の溝口氏によると「生徒たちはESDを十分に理解できていないかもしれない」との話もありましたが、様々な事業を通して、経験と体験できる環境を作り上げているとの事でした。

中でも創立以降継続的に行われている天拝山登山は、生徒たちの心に思い出や経験として強く刻まれているようです。また、先生や友達とのコミュニケーションが増え、悩み事、相談ごとのできる貴重な時間にもなっているそうです。この経験は、在学中、また、卒業後それぞれの道に進む中で生徒の人生に大いに影響を与えているとの事でした。

学校全体としては、共通理解ができるような宣言や指針が明確に示されており、しっかりとした組織の中で実施されています。

武蔵台高等学校のような取り組みを始めることは難しいと思いますが、未来を担う子どもたちのことを考えると、「いずれ」ではなく、「今」始めなければならぬと強く感じました。ESDの国際会議が終わり、新たなるスタートを切った今だからこそ、日進市が先頭に立って行動すべきであると考えると同時に、日進市の子どもたちにもこのような経験や体験をさせたいと思いました。

日 時：平成 27 年 1 月 22 日 水曜日 13:30～15:00  
場 所：大分県日田市役所学校教育課（日田市立三芳小学校）  
視察テーマ：楽しく運動をして体力向上を目指す、縄跳びの取り組みについて  
説 明 者：学校教育課 課長 江嶋久典氏 指導主事 小林祐志氏

### 日田市の教育方針

平成 26 年度の学校教育指導方針は、第 5 次日田市総合計画に基づき、人権尊重と平和社会実現を基本理念としており、「生きる力」を育む学校教育の充実をねらいとしています。

学校教育においては、子どもたち一人ひとりに「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成し、自ら考え自ら解決していく力などの「生きる力」を育むことを目標に、教育活動に取り組んでおられます。

日田市は「咸宜園」に代表されるように、古くから学問・教育が盛んな土地であり、「師弟同行」「治めてのち学ばせる」など、咸宜園教育の理念を学校経営に生かすとともに、家庭や地域との連携を図りながら、「生きる力」の育成に取り組んでいます。

市教育委員会では、「心豊かで輝く人の育つまちづくり」を目指すため、全市的な視野から教育環境の整備充実を図り、教育の機会均等と教育効果の向上に努めており、以上に示す 3 点を踏まえた、重点方針の柱を設定されています。

「生きる力をはぐくむ学校教育の推進」

- 1、豊かな心の育成
- 2、確かな学力の育成
- 3、健やかな体の育成（※一校一実践）

### 日田市立三芳小学校概要

日田市の東部に位置し、久大線日田駅と三芳駅の間部にあります。刃連・下井手・三芳小渕・桃山・大部・小ヶ瀬・日高・古金・神来・求の 10 町内からなり、総世帯数 2, 258 戸（平成 26 年 4 月 30 日現在）です。国道 210 号線をはさんで商店街・農山村・新興住宅地が混在する地域であり、児童の生活環境上の格差が大きいとされています。

大正 15 年三芳尋常小学校として創立以来の歴史と伝統のある三芳小学校は、体育の県指定研究校での成果を受け継ぎ、社会体育への関心も高く、地域をあげてスポーツの盛んな校区です。また、父母の教育に対する関心も高く、育友会活動も活発となっています。

### 三芳小学校の重点目標

上記（日田市における教育方針の重点方針）である、「3、健やかな体の育成（※一校一実践）」に基づき、三芳小学校では、「縄跳びによる体力向上と安全管理の充実」を重点目標として掲げています。

### 重点目標達成のための学校組織の構築（参考資料 3）

学校の重点目標の実現に向けたプロジェクトチームを編成しており、主幹教諭及びチームリーダーを中心に全教職員が機動的・効率的に取り組んでいくようにしています。

また、運営にあたっては、主幹教諭を中核とした運営委員会を月に 2 回実施し

ながら、その際、企画、立案、実行、評価、改善を確実に果たしていくようにしているようです。(PDCA サイクルの実施)

## 体力向上で「縄跳び」を選択した理由

小学校の体力向上策として、水泳、持久走を取り入れるところが多いが、児童の得意不得意がはっきりしてしまうため、子どもたちが楽しめることと、年間継続しながら取り組める運動と言う事で「縄跳び」を選択されたそうです。

## 縄跳びの取り組み（一校一実践）

### 1、年間を通した取組

年間を通して継続的な取組みをするため、全学年、体育時の始まりの5分間に基本の運動として縄跳びを取り入れるようにしています。また、縄跳びへの興味関心と技術の向上を目指した環境整備・全校縄跳び習慣の実施し、休み時間や放課後における自主的活動の推進、評価の工夫などの取組みもしています。

### 2、チャレンジカードの活用による縄跳びへの意欲向上

2種類の縄跳びチャレンジカードを作成し、児童が自らの体力に応じた目標を設定しながら、個別に取り組む中で、主体的に体力向上を図っていく取組みをしています。

以下のような、前跳びと後ろ跳びの2種類のチャレンジカードにより、目標達成という成就感を短い期間の中で味わえるようにしており、前跳びチャレンジカードの下級からスタートし、師範までクリアできたら、後ろ跳びチャレンジカードへ進みます。

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
1年	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
2年	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60
3年	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65
4年	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70
5年	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75
6年	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80
7年	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85
8年	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90
9年	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95
10年	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年
1年	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55
2年	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60
3年	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65
4年	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70
5年	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75
6年	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80
7年	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85
8年	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90
9年	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95
10年	55	60	65	70	75	80	85	90	95	100

## 学習・生活習慣アンケートの結果

学習習慣・生活習慣アンケートの結果、「自己肯定感が低い」「学習意欲が低い」といった現状があるため、それぞれの向上を図るためにも、取組みの一つとして、縄跳びを中核とした企画を実施したいとしています。

## 所感

縄跳びの取組みについては、三芳小学校の先生方だけでなく、保護者の方々のご理解とご協力のもとに成り立っています。特に「おやじの会」の協力により製作された、縄跳び専用のジャンピングボード（間隔を開けた二本の角材の上にベニヤを載せた物）は、子ども達に大変人気があり、児童の縄跳び技能の向上を図ると共に縄跳びへの興味関心を飛躍的に向上させる工夫もされています。

各級や段をクリアした際には、認定証の発行をするとともに、努力を褒め称え、他の児童にも紹介されるなど、学級の中で評価される仕組みにもなっています。また、もっとも難しい「師範」級をクリアした児童には、認定証の他にメダルの授与もされ

ます。

学校教育課課長の江嶋氏によると、縄跳びによる効果があったと考えられる事としては、「明確な目標設定と評価が行える仕組みが整っており、児童が自ら行動するようになった」「体力テストにおいて県平均を下回っていた、シャトルランと50メートル走は、県平均を上回るようになった」との説明もありました。

縄跳びの取り組みは、財政状況が厳しい中においても実施できることであり、様々な効果が期待上に、学校だけでなく地域を巻き込んだ活動へと拡大させることもできると考えられます。

日進市で行う際は、三芳小学校での取り組みに加え、縄跳びの各種大会への参加推進や地元大学との連携を行うことで、縄跳びによる効果の検証を行い、より効率的・効果的な取り組みになるような方法を検討すべき必要があると考えています。

日 時：平成 27 年 1 月 23 日 水曜日 9:30～11:00  
場 所：福岡県福岡市（創業・大学連携課）  
視察テーマ：産業競争力強化法に基づく「創業支援事業計画」の認定について  
説 明 者：課長 藤本広一氏 飯笹美由紀氏  
リサーチ：福岡創業支援センター面談者：センター所長有田哲二氏（日本政策金融公庫）

## 福岡県福岡市概要

恵まれた自然と豊かな歴史に産まれた都市であり、糸島半島と志賀島(海の中道)の二つの腕の中で博多湾を抱き、背後には緑の山々が連なっている。有史以前から大陸との交流の歴史を持つ地として発展し、外交・貿易の拠点となってきました。

また、先人たちのひたむきな努力によって、九州の中核都市として成長し、昭和 62 年には、「海」と「アジア」を都市像として掲げた「福岡市基本構想」を策定し、他都市に先駆けてアジアに開かれたまちづくりを推進されてきました。

現在では、経済・行政・情報・教育・文化などにおいて広域的な機能を持ち、九州全域の発展に寄与しています。そして、この素晴らしい都市を、未来を担う子どもたちに引き継ぐため、「地域の産学官民」の協働に力を入れ、将来に向けての都市づくりをされています。

## 特定創業支援事業概要

福岡市においては、第 9 次基本計画において「新たなチャレンジを応援するスタートアップ都市づくり」を掲げ、各種の創業支援事業を実施するほか、「スタートアップ応援ネットワーク FUKUOKA」による地域の公的支援機関との情報共有やワンストップ支援の体制づくり等にも取り組んでいます。

本計画においては、これまでの取り組みをさらに推進・強化するため、市内の様々な創業支援に係る公的機関、民間企業、任意団体等の持つコミュニティ形成機能に着目し、各機関等のコミュニティに属する創業者及び創業予備軍が、本計画の連携を通じて様々な人的ネットワークや支援施策・事業にアクセスできる仕組みを作り、創業機運の醸成や、新たな価値を創出するスタートアップに繋げています。

本計画の全体目標値（年間）：1,224 人支援、102 人創業  
現在までの実績値：支援者数 500 人、創業者数（登録だけでも含む）54 人

## 創業支援事業者（別表 1-1～1-5、2-1～2-6）

- 1、福岡市：専門家派遣（ハンズオン支援）
  - ：女性の起業支援セミナー（年 1 回）
  - ：インキュベート事業（ハンズオン支援）

- ：ビジネスプラン総合相談会（実施後のハンズオン支援）
- ：スタートアップ応援ネットワーク FUKUOKA 連携事業（随時）
- 2、一般社団法人 OnRAMP：起業家支援プログラム（包括支援）
- 3、九州志士の会：若志士共創塾（年2回）
- 4、一般社団法人女性起業家スプラウト：スプラウト創業塾（年1回）
- 5、株式会社アイ・ビー・ビー：インキュベーション（ハンズオン支援）  
専門家による講義（年1回）
- 6、福岡商工会議所：福岡起業塾（年3回）

### 創業しやすい環境づくり

市内の中高生を対象に、ITベンチャー企業経営者や国際的に活躍する起業家等に自身の体験を通してチャレンジの大切さや起業について講演して頂く事で、中高生の企業への興味が高まっています。これは、アンケート結果（舞鶴中学校参加者49名）でも「起業への興味」が38%から92%に増加したことからわかっています。

### スタートアップ奨学金

チャレンジ心あふれる大学生をグローバル人材として育成し、地元福岡で活躍してもらうことを目的とした奨学金であり、創業・就職の実現に向けた支援を実施されています。

対象：福岡市内の大学に在学し、大学実施の交換留学制度により留学する日本人大学生)

人数：年間5名程度

金額：最大120万/1名

形態：貸付（ただし、地元で創業・就職した場合は返還免除）

特徴：留学前から留学後まで、地元でのスタートアップ

### 創業検討期を支えるスタートアップ支援拠点（スタートアップカフェ）

このカフェは、TSUTAYA BOOK STORE TENJIN内のスペースを活用し行われています。下記の内容が、スタートアップカフェの主な機能になります。

#### □情報提供・相談・交流

- ：コンシェルジュによる補助金等行政情報の提供
- ：公的・民間支援団体が実施するスタートアップ支援情報の提供
- ：創業マインドの醸成やスキルアップのためのセミナー等の企画・開催
- ：創業に関する様々な相談にコンシェルジュが対応
- ：創業を目指す方と必要な支援者などとのネットワーク構築

#### □ワンストップ開業窓口機能

- ：創業手続きに関する相談にコンシェルジュが対応
- ：手続きに必要な専門家（士業）の紹介
- ：専門家による創業手続き相談会の開催

#### □人材確保支援機能

- ：創業企業で働きたい人や、人材雇用を希望する企業が参加する交流会の開催

### 立ち上げ期のインキュベート事業

この事業では、創業予定者や創業間もない企業・個人を対象に、低額な料金（一般的な使用料の半額程度）で利用できる事務室を提供しています。また、入居者への支援として、入居期間中は、中小企業診断士やコーディネーターなどの専門家による経営指導・助言を行うこともしており、自立化を促す事をされています。

### 立ち上げ期の福岡創業者応援団事業

福岡創業者応援団（経営者 22 名、専門家 27 名 1 法人、福岡市インキュベート施設卒業者 2 名 1 団体にて構成）は、福岡市で起業する情熱とアイデアにあふれた創業者の夢の実現を応援する人々のネットワークであり、福岡を拠点に事業を展開している経営者や中小企業診断士、公認会計士の皆さんの協力を得ながら実施されています。

このことにより、創業者の成長段階に応じたきめ細かい支援や様々な人との出会いの場を提供できる仕組みとなっています。

具体的な内容としましては、下記に示す 4 事業になります。

#### 1、ステップアップ助成事業

成長性の高い事業計画を持つ創業者に対して公募し、審査を経て、課題改善資金を助成すると共に、専門家を派遣（無料）し、更なる成長を支援しています。

（補助金総額 200 万）

#### 2、ビジネスプラン総合相談会

新規性、成長性のある事業計画を持つ創業者がプレゼンを行い、応援団メンバー 6 名が経営戦略や課題解決のヒントなどのアドバイスを行っています。

さらに、一層の成長が期待できる相談会参加者へは支援人材派遣や経営者訪問を実施されています。

#### 3、創業者フェア

企業支援者や投資家、あるいは創業者同市のネットワークを広げ、ビジネスチャンスの場を提供するために、年に 1 回、福岡商工会議所と共催で「創業者フェア」を開催されています。

#### 4、経営を語る会・若手経営者たちの創業挑戦記

先輩経営者を講師に迎え、経営について“語り合う”会を開催されています。参加者からの質問や意見交換の時間を十分に設ける運営方式で、成長企業の経営者が持つ経営哲学や戦略について学ぶことのできる場となっています。

### 立ち上げ期の資金調達制度（創業支援資金融資制度）

利用の申し込みに関しては、一定の条件がありますが、下記に示す 2 点の融資制度を設けています。

1、県内の会社であって、現在の事業を継続しつつ、新たに市内で会社を設立される方に対しては、融資限度額 1500 万円（金利 1.5% 保証料率 0.81%）

2、市内において新たに事業を開始される方、または開業後 6 か月以内の方に対しては、融資限度額 1000 万円（金利 1.5% 保証料率 0.457%）

### 成長期に行うグローバルベンチャーの創出

Fukuoka Global Venture Awards（フクオカ・グローバルベンチャー・アワード）を開催しており、グローバルに事業を展開していく国内ベンチャー企業及び海外

から福岡への進出を考えている海外ベンチャー企業を対象に、英語によるビジネスプラン・コンテストを実施されています。

このコンテストでは、福岡市が国内外の起業家の交流拠点となることとグローバルに活躍する企業を数多く創出することを目指しています。

## 所感

福岡市では、アジアや世界で活躍できるような起業家の発掘・育成を通して、国内外で活躍人材とも連携し、「スタートアップ都市・ふくおか」の実現を目指すと共に地域経済の活性化を図ることにも取り組まれており、創業者及び企業の可能性を見つけ出し、最大限に活かすことのできる環境が整っていると感じました。

スタートアップ支援の取り組みとして行われている、市内の中高生を対象にした講演（チャレンジの大切さや起業について）は、創業しやすい環境づくりを進めるためにも、子どもの頃から関心の持てるようなきっかけ作りをすることが重要であると思います。また、中学校や高校との連携が図られていることについては、是非、参考にすべきではないかと考えます。

その他にも、大学と企業が連携し、福岡を「大学のまち」「学生のまち」としていくための事業を実施する母体として、これまで実施してきた市長と大学学長との定期交流会議を発展させ、福岡都市圏の大学と行政・企業の連携で「大学ネットワークふくおか」を平成21年6月に設立されました。

会員は、福岡都市圏の20大学と商工会議所や福岡市で「大学連携の推進」「学生活動の活性化」「地域・産学連携の推進」「情報発信」を主な取り組みの方向性とされており、

それぞれの方向性にあった、様々な事業が実施されています。

「学生活動支援」に関わる取り組みとして、下記に示す3つの事業が行われています。

### 1、ビジネスチャレンジ事業

- ・福岡の成長につながる人材（社会で通用する人材）を育成すると共に、創業マインド（チャレンジ精神）を醸成することを目的として、起業・ビジネス提案の実施等に取り組む学生主体の活動を支援している。
- ・学生主体のグループから提案を受け、審査会で認定したグループに財政支援、相談助言を実施している。

### 2、学生活動発表会

- ・地域の将来を担う人材の育成及び学生の行う研究や活動を地域活性化にいかすことを目的に、実際の社会と関わる研究や活動を行っている学生団体の表彰及び発表会の開催している。

### 3、就活支援キャラバン事業

- ・大学生に地元の中小企業の情報をよく知ってもらい、就職のミスマッチを軽減し、地元中小企業への就職意識を高めることを目的に、大学生への地場企業の経営者による中小企業の魅力紹介を実施している。

いずれの取り組みにおいても、多くの大学が立地している日進市では大変参考となる事

業であると感じました。

日進市は、これまでも企業誘致を推進されてきましたが、状況が大きく変わることは

なく現在に至っているのが現状ではないかと思えます。人口増加は続いているものの、その増加に見合う税収はありません。さらに、大学の都心回帰が進むことなどを考えれば、今後、持続可能な街・行政の運営は厳しくなるばかりだと考えます。

そのため、福岡市のように起業や商工会議所さらには、大学との連携による創業支援を積極的に行うことが「街の魅力・企業の魅力・大学の魅力」を相互に向上させるものだと考えております。

日進市は、人口約 86,000 人の街でありながら、6 つの大学を有しており、恵まれた環境にあるといえます。これは、日進市における資産であり、住民の財産でもあるため重要な役割を果たすことになるのではないのでしょうか。これらを最大限に活用するためにも、積極的取り組み実績のある福岡市の活動を手本にすべきであると考えます。

また、JR 東海は、平成 39 年（2027 年）に東京都と名古屋市間で営業運転を開始する方針を発表しており、日進市においてもこの影響を受ける事となります。このような外的要因も踏まえ、早期に取り組みを始める必要があると考えます。

日 時：平成 27 年 1 月 23 日 水曜日 13:00～15:00  
場 所：福岡県筑前町（筑前町立夜須中学校）  
視察テーマ：夜須中学校で午後の時間に行われている「昼寝（午睡）」について  
説 明 者：校長 山口聖二氏

### 筑前町立夜須中学校概要

昭和 22 年に創設され、今年で 68 年目を迎えており、平成 26 年度のクラス数は 16、全校生徒数 461 名の学校です。

本年度の重点目標として、「授業づくり（学力の向上と言語活動の実践）」「豊かな心（積極的生徒指導と道徳教育の充実）」「開かれた学校（学校・保護者・地域との双方向による生徒の育成）」の三つを掲げ、組織運営・教育活動・職員研修の改善充実に努めています。

### 学校経営の基本方針

公教育の推進者としての自覚と使命感に立ち、生徒や保護者・地域社会の願いに応えるために、生徒や地域の実態を踏まえた特色ある教育課程を編成し、本校教育目標の共通理解と共有化を図りながら、秩序と規律ある活力に充ちた学校づくりを推進していくために下記に示す 4 点を掲げています。

- 1、生徒・家庭・地域社会の期待や信頼に応える学校運営協議会（CS）と連携した学校づくりに努める
- 2、積極的生徒指導による教育活動の充実を図る
- 3、学力の向上と道徳教育指導力の向上を図る
- 4、校長を中心とした協働体制を確立し、全職員に経営参画意識をもたせる

### 午睡とは

生徒の心身の成長と午後の授業への集中力を高めるため、午後に眠るいわゆる昼寝の事。

### 午睡導入の背景

午睡に関しては、福岡県立明善高校で 10 年前から研究が行われており、その研究に携わっていたのが、夜須中学校の山口聖二校長と筑前町の大雄信栄教育長でした。

平成 25 年から教育長に就任した大雄氏により、筑前町の教育委員会における学校教育施策（心身ともに健やかな児童生徒を育成する健康教育の推進）の一つとして、「中学生への午睡の推奨」が位置付けられており、実行されているのが山口校長であります。

一昨年に実施されたアンケートで生徒の 3 割以上が「睡眠が十分でない」と回答したことを踏まえ、毎週月曜と水曜、昼休み後の午後 1 時 50 分から 10 分間、全生徒と教職員が昼寝を行うこととした。また、その他の背景として、下記に示す 3 点が挙げられていました。

- 1、人間は本来、夜間に十分な睡眠をとることが重要であるが、現代の日本では十分な睡眠をとることは困難である。生活リズムは夜型にシフトしており、慢性的な睡眠不足につながっている。学生においても、部活動や塾などによって帰宅時間が遅くなり、生活時間全体が遅くなっている。睡眠が不足すると朝の目覚めが悪

く、昼間の眠気も強いいため様々な悪影響が生まれる。（倦怠感・能率や資産性の低下など）

- 2、眠気にはリズムがあり、最も強い眠気は午前 2 時頃と午後 2 時頃の 12 時間のリズムで出現する。すなわち、午後 2 時頃は昼食を食べなくても生理的に眠気がやってくる。さらに昼食をとると眠気は強くなり、夜間の睡眠不足が加わるとより一層増強する。
- 3、午睡導入前の平成 17 年に明善高校で行われたアンケートの結果では、86.7%の生徒が午後に「我慢できない強い眠気」を感じることもあると答えている。確かに午後の授業において、授業中に居眠りをする生徒が存在しており、学習効率の上で支障となっていた。授業中の居眠りは、そのまま授業内容の理解不足へとつながり、成績面で悩む生徒を生み出すこととなる。

### 午睡の効果と方法

- 1、自然の眠気のリズム、昼食、睡眠不足のために午後 2～3 時には眠気が生じる。この眠気は動くとき軽減し、安静にすると増強する。特に午後の最初の授業中に強い眠気を感じる人には午睡が必要である。
- 2、午睡をすることによって眠気が軽減し、集中力や意欲が高まる。
- 3、午後は、無理に眠らなくても良い。5 分間閉眼して安静にするだけでも効果はある。
- 4、午後は浅い眠りがよい。深い眠りは逆効果になる。15 分程度が理想である。
- 5、週に 3 回以上昼食後に午睡を行うことによって、昼夜のメリハリのあるリズムが確立し、夜の睡眠も深くなる。

### 現状の課題

福岡県立明善高等学校では、久留米大学医学部精神神経科学教室助教授の内村直尚氏の指導の下に平成 17 年に全国初の午睡（昼寝）タイムを導入し、昼休み（12:55～13:40）の内、13:15～15:30 までの 15 分間を「午睡タイム」と位置づけ、BGM としてモーツァルトの曲を流し午睡を実施しており、そのデータ分析を基に夜須中学校での「午睡」を開始されたが、下記のような、新たな課題が出てきたため、現在は、取り組み方法に関して様々な検討をされているようです。

- 1、午睡の後に、すぐ授業が始まると完全に目が覚めない場合がある。
- 2、午睡の後の授業で、教室等の移動がある場合に間に合わなくなることもある。
- 3、午睡の開始から 5 分が安静時間その後 10 分の午睡を実施し、目を覚ますためにさらに 5 分の時間が必要となり、計 20 分の時間を作ることが難しい。
- 4、生徒会及び各委員会等の会議時間が重なり、参加できない。
- 5、昼休みの補習等に参加する場合、参加できない。
- 6、昼休みの間に自分の用事を済ませたい。
- 7、友達と一緒に遊びたい。

当初は、全校一斉に各教室で行っていましたが、上記のような様々な理由により、食堂での自主参加の方法に変更されたそうです。はじめは、ほとんどの生徒が参加していましたが、進路相談等の理由で参加しない 3 年生が増え、その影響を受けた 2 年生・1 年生が徐々に減り、最終的には、誰も参加しない日が出来てしまったとの事でした。

食堂での午睡に参加しない理由としては、「男女が向かい合う形の席は眠りにく

い」「自分は行きたくても、一人では参加しづらい」などが挙げられていました。

### 今後の方向性

昼休みは、先生や友達との大切なコミュニケーション時間でもあるため、改めてアンケート等を行い、午睡が実施できるよう取り組み方を十分に検討したいとの事でした。

### 所感

校長の山口聖二氏から、取り組みの現状についてありのままを伺うことができました。夜須中学校では、福岡県立明善高等学校での研究データを基に実施をされましたが、上記に記載（現状の課題）したような課題も見つかっており、中学校での取り組みに関しては、まだまだ実施方法について検討の余地があることがわかりました。

生徒（中学2年生の生徒会役員8名）との面談では、「現状の課題」をそれぞれの生徒が抱えており、参加する生徒は少ないものの、面談した全生徒から、「午睡を続けてほしい」との意見が出ており、さらに、生徒たちが取り組みやすい方法として挙げていたのは、自由参加ではなく「各教室で全校生徒が一斉に「午睡」を行う事」でした。

今後、日進市において実施する場合には、先生をはじめ生徒の意見が反映できるような事前アンケートを行うとすることが必要であり、限られた時間の中で、いかにして実施するかをしっかりと検討する必要があると感じました。

夜須中学校では、「午睡」の後にすぐに授業を始めておりますが、いくつかの課題が出ておりますので、この課題については、「午睡」の後に掃除の時間を入れるなどして、目が覚めるような活動を入れることで授業に臨みやすくなるのではないかと考えています。

## 全体の所感

この度、様々な方にアドバイスを頂きながら単独で行政視察に行っておりました。これまでの行政視察とは異なり、自身の目指す街の将来像を思い浮かべながら、目的を明確にして視察地の決定を行ったことで、より具体的な内容について調査を行うことができました。

ここにまとめている本視察の報告内容を基に、具体的な活動方法の検討につなげてまいりたいと考えています。

今後は、本視察内容の類似団体への訪問をはじめ、先進的な取り組みや活動をされている様々な自治体へ足を運びたいと考えています。そして、「自分の生まれ育った街 日進」「子どもを育てる街 日進」が安心・安全な住みやすい街とするために活動を続けていきたいと考えています。